

放射光研究所の組織や人事のあり方については、これまで小田稔放射光研究所長と各部門長および諮問委員会の学識経験者若干名からなる研究所基本問題懇談会において審議を重ねてきた。以上述べた研究所の組織や人事はすべてこの委員会で検討されたものである。

利用フェーズでのSPring-8利用者懇談会の活動について

SPring-8利用者懇談会

会長 菊田 惺志

ご承知のようにSPring-8はこの10月から供用開始となり建設フェーズから利用フェーズへと移行し、SPring-8の管理運営がこれまでの建設に携わってきた原研・理研共同チームからJASRIに引き継がれます。勿論、共用ビームラインの第2期の建設作業がその後も続きますが、利用者懇談会は元来 SPring-8における会員の研究活動の進展のために、SPring-8施設の建設への協力ならびに利用の円滑化と会員相互の交流の促進を図ることを目的としており、利用フェーズになっても、利用者懇談会の基本的なスタンスは変わりませんが、活動の態様は少し変わると思います。その活動方針を前もって考えておく必要があります、すでに幹事会、運営委員会において議論してきましたが、このたびの総会です承が得られました。それをここにご紹介します。

○研究課題別サブグループを存続させ、実験ステーションの建設のあとは、その高度化に寄与する。

まず利用フェーズで重要なことは、研究課題別サブグループを共用ビームラインの実験ステーションを建設したあとにも存続させることです。利用研究は軌道に乗り、進展していくでしょうが、当然さらに高いレベルの研究をめざすことになると思います。そのためにはビームラインと実験ステーションをハードとソフトの両面でたえず高度化していく必要があります。建設に携わったサブグループは実験装置に関して豊富なノウハウを蓄積していますので、その実験ステーションでの放射光利用研究の経験を踏まえて、実験ステーションの高度化の作業を適確にこなすことができると考えられます。

○SPring-8の将来計画の立案にユーザーサイドから寄与する。

SPring-8が将来的にも高いアクティビティを維持するためには、個別のビームラインと実験ステーションの高度化の作業を進めるとともに、SPring-8全体として発展する方向を見据える将来計画をもつことが肝要です。その将来計画の立案に利用者の立場から寄与するのが望ましいと思います。

○SPring-8 Annual Reportに上記の作業のまとめを報告する。

実験ステーションの高度化と将来計画の立案に関する作業のまとめはJASRIから刊行されているSPring-8 Annual Reportに放射光利用研究の成果とともに掲載します。

○これらの作業に対してJASRIに資金的支援を要請し、利用者懇談会の活動の原資とする。

これまでの建設フェーズでは利用者懇談会は、原研・理研からJASRIへ委託された材料科学及びライフサイエンス研究分野等におけるSPring-8の利用計画調査に協力するとともに、

JASRIからのSPring-8での利用研究に関する調査の委託を受けてきました。これからの利用フェーズでは上記のような作業をJASRIから委託を受ける形で実施できればありがたいと思います。

○SPring-8シンポジウム（仮称）と講習会をJASRIと共催する。

昨年10月末に催されたSPring-8シンポジウムはいわば第0回の位置づけで、ここでのSPring-8シンポジウムは放射光利用が始まってからのものです。放射光利用研究の成果は日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムで発表する形が次回以降も継続されることが、このたび学会と共催団体の全体会議で決められました。これは学会が主催し、全国の放射光施設と利用者団体が共催して、各放射光施設の利用者が一堂に会して研究成果を発表するもので、学会や各施設が個別に行うよりも情報交換が効率的に密度濃くできます。SPring-8も放射光利用研究の成果発表はそこで行い、SPring-8シンポジウムではSPring-8での放射光利用研究の発展や共同利用の円滑化に必要な事柄を討議します。講習会では、放射光科学の啓蒙と放射光利用研究の手ほどきを行い、放射光利用研究者の拡大と放射光利用の円滑化を図ります。

○広報誌「光彩」は「SPring-8利用者情報」にマージさせてもらう。

広報活動については、SPring-8計画の準備フェーズでは「サーキュラー」が、建設フェーズでは「光彩」が自由な意見交換や情報伝達の間として役立ってきました。一方、JASRIは1991年7月から「SR科学技術情報」を発刊し、各分野における研究の動向、トピックスや文献速報を掲載していましたが、建設が進み、利用に向けた情報を提供することが必要になってきたので、1996年3月から新たに「SPring-8利用者情報」を発行しています。ところで「光彩」と「SPring-8利用者情報」は当然のことながら取り扱う話題は似ていますから、記事が重複することが多く、執筆者への負担も増えています。費用や手間も問題です。利用者懇談会と施設側は基本的に不即不離の関係にあるのがよく、会誌は独自のものを持っているのが筋ですが、利用フェーズでは負担を軽減するため「光彩」を「SPring-8利用者情報」にマージさせてもらってはどうかと思います。議論があるのはJASRIの広報誌に利用者懇談会の会員の様々な意見や要望を載せることですが、JASRIはそれを許容できるのではないかと期待しています。実施にあたっては「SPring-8利用者情報」に「利用者懇談会だより」のような欄を設けていただき、そこで利用者懇談会の活動状況を報告するとともに「光彩」に載っている「会員の声」も掲載します。編集委員会には利用者懇談会からも編集委員を出し、利用者懇談会側の記事をまとめます。

○JASRIの主要な委員会に委員の候補者を推薦する。

一般的に共同利用の実験施設では、施設の運営に利用者の意向を適確に反映させるために、利用者組織から施設の主要な委員会に委員の候補者を推薦するのが慣例になっています。利用者懇談会でも従来そのような依頼を受けていますが、利用フェーズでこのような形が定着してほしいと思います。

提案は以上のとおりです。JASRIは放射光利用研究を促進する役割を担っていますので、利用者懇談会は利用者の立場からそれに寄与できればと思っており、ここでの提案はその線に沿ったものです。今後この提案に対してJASRIにご理解・ご協力をいただけるように努めます。